



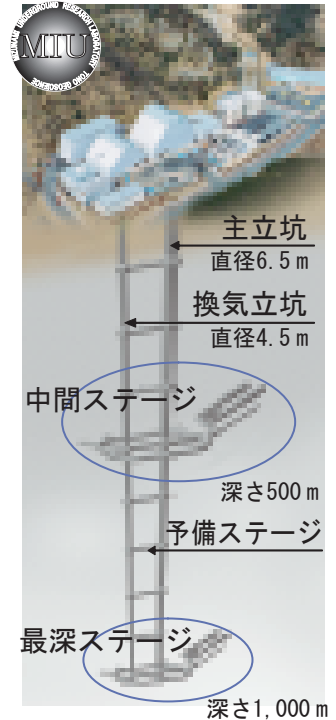
超深地層研究所計画では、地下の状態（「地質環境」といいます）を理解するために必要な調査・解析技術の研究開発や深地層における掘削工事などの基盤的な技術の研究開発を行います。この計画は、瑞浪市から借用した東濃研究学園都市インターガーデン内の市有地（瑞浪超深地層研究所）と、瑞浪市内の原子力機構所有地（正馬様用地）で進めています。

瑞浪超深地層研究所では深さ1,000m程度の立坑や水平坑道などを設置し、主に花崗岩を対象として断層及び割れ目の性状や分布、地下水の流れや水質、岩盤の強さなどを調べます。また、地下深部の坑道を安全かつ合理的に設計・施工し、維持・管理するための研究開発を行います。正馬様用地では、既存のボーリング孔などを用いて、断層周辺の研究等を継続して行います。計画は大きく3つの段階に分けて進めていきます。なお中期計画では、平成21年度末までに立坑の掘削を中間深度（500m程度）まで進めることを目標としています。

超深地層研究所計画におけるスケジュール

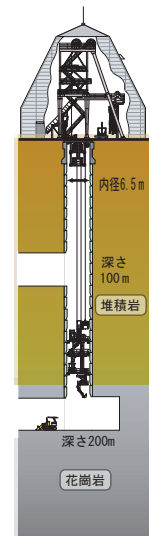
年度	平成12年	平成22年	平成32年
調査・研究	【地表からの調査予測研究段階】		
第1段階	【研究坑道の掘削を伴う研究段階】		
第2段階	【研究坑道を利用した研究段階】		
第3段階			
施設計画			
造成工事			
立坑の掘削			
中間・最深ステージ掘削			

(スケジュールは変更の可能性があります)



瑞浪超深地層研究所イメージ (施設の形状、配置などは変更の可能性があります)

平成19年度



主立坑掘削のイメージ